

# 岡谷市議会 産業建設委員会 行政視察報告書

## 【総体事項】

1. 視察日程：令和4年6月27日(月)～29日(水)

2. 調査事項（視察先）

### （1）たじみDMO（岐阜県多治見市）

①たじみDMO（多治見まちづくり株式会社）の取組みについて

②多治見市の産業・観光振興計画との関わりについて

### （2）金沢未来のまち創造館（石川県金沢市）

①地域の人材育成と交流の場となる取組みについて

②異業種・異分野連携による産業共創への取組みについて

### （3）石川県森林組合連合会（石川県金沢市）

①石川県森林組合連合会の組織について

②いしかわスマート林業の取組みについて

③産業との連携による林業収益向上対策について

### （4）トヨタ白川郷自然学校（岐阜県白川村）

①トヨタ白川郷自然学校の取組みについて

②地産地消の取組みについて

3. 視察参加委員

副委員長 中島 秀明

委員 遠藤 真弓

委員 藤森 博文

委員 今井 義信

委員 山崎 仁

## 【視察地報告】

### (1) たじみDMO(多治見まちづくり株式会社)

#### ①視察先の概要

- ・「たじみ DMO」は、中心市街地の活性化に取り組んできた TMO「多治見まちづくり株式会社」から、観光協会、花柳、TMO の 3 つの組織を統合して、今年 4 月に一般社団法人に改組
- ・TMO「多治見まちづくり株式会社」は、中心市街地の活性化事業として空き家のリノベーション（「カフェおんど」等）を手がけており、当初は、既存店舗からの不満もあったが、活気が生まれ景観が良くなるなどの相乗効果等により活性化に貢献
- ・観光振興の事業では、イベントや祭りの開催は単発で終わるのではなく、粘り強く継続する企画が大切であり、陶器のブランドを利用した周知等により近隣の名古屋方面に呼びかけることで多治見市の商店街への集客を推進

#### ②視察による政策や市政に向けた提言

- ・一般社団法人として、岡谷市の商業、特に中央通りを中心とした市街地の活性化に関して、今後の展開や取組みの参考にすることを目的としたが、多治見市の商店街も依然としてシャッターがおりているところも多く、建物も古く、高齢化による事業承継や空き店舗対策等は、岡谷市と同様に大きな課題
- ・商業の活性化においては、商業者自身がリーダーにならずに、しっかりした考えを持ったまちづくりプランナーや代表として行動できる人材育成、もしくは、それらの人材を獲得することが急務で、地域協力隊の活用が必要



小口英二社長

### (2) 金沢未来のまち創造館

#### ①視察先の概要

- ・2014年に閉校した学校を新産業推進事業の拠点としてリノベーションして2021年8月にオープン
- ・金沢未来のまち創造館は、『わくわくする未来をつくる』というコンセプトにより、

異業種・異分野連携による新しい産業の共創と未来を担う子ども達への支援を目的

- ・「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」三つの事業活動を展開

- ・金沢市が管理運営を行い、3つの事業活動は公募型プロポーザルによる一般社団法人 CLL が担う、官民連携型の価値創造拠点となる施設

## ②視察による政策や市政に向けた提言

- ・魅力ある岡谷市に向けて必要とされることを喫緊の課題として捉えた上での迅速な対応

- ・子ども達の未来に向けて、テクノプラザを中心としたワークショップやイベント等の開催の推進

- ・テクノプラザを核とし、関連部局を横断した事業を推進していくための体制（企画政策部内）の構築

- ・県管轄の関連施設や取組み等との連携の強化と統括していくための体制の構築



## (3) 石川県森林組合連合会

### ①視察先の概要

- ・森林組合は4つ（加賀・能登・中能登・金沢）で、木材生産量は13万<sup>m</sup>。森林経営管理制度があるが不在村森林所有者や登記されない森林が増加している。組合員は年々減少

- ・流通面では、通常の木材市場は価格が不安定で直売で安定化したことで需要が増えており、今後増やしていく予定

- ・林業従事者確保、特に若年層に向け、令和2年から技能職員への転換で月給制へ移行、完全週休2日制等社会保障を確保し、また、中学高校のインターシップ等の就職支援共に、作業安全面の改善や機械化を推進

- ・コマツと林業に関する包括連携協定をH26年に締結して、ICT・AI・ドローン等の積極的な活用を推進

ア) 3D 画像技術で机上での森林境界推定により労務・コストの削減。樹種判別も可能（アプリの商品化を予定）

イ) 伐採・木寄せ、造材・運搬等をハーベスタで一括作業し、アームで検出したデータをすべてクラウドにアップして管理

・木育の概念の浸透に向けて、森林環境税で森の幼稚園等の事業化や木育の施設によって親子で自然体験を通して「木を知り木の良さを知ってもらう」取り組みを推進

## ②政策提言へのヒント及び岡谷市政に反映すべき点

- ・スマート林業の必要性。境界を明確化するシステムは岡谷市でも活用できる可能性
- ・林業に関する政策提言に向けて、「森林を活用するための道筋をつける」という視点が必要

## （４）トヨタ白川郷自然学校

### ①視察先の概要

- ・京都議定書の採択を機に、トヨタにトヨタ環境チャレンジ 2050 の実践の場として 2005 年 4 月にオープン
- ・野外活動や企業研修等による人づくりに向けて、環境 NGO、白川村、トヨタの三者による NPO 法人が運営
- ・「人々が健やかに生きながらえる社会づくり」に貢献するサステイナブルなマインドを持った人材づくりと急激に変化する社会・地球環境の中で「それでも人生に“イエス”と 言う」ことができる人づくりを目的
- ・森林サービス事業の展開と、メンタルヘルスを含む医療系企業へのサービス提供等による異分野・異業種との連携
- ・子供の教育や大人の癒しに向けて森林資源活用で“森に人が来ることで林業の活性化につながる”ことを目指す

### ②政策提言へのヒント及び岡谷市政に反映すべき点

- ・林業の活性化に向けて、森林の広範囲な利活用（医療・教育・木育・自然体験・ロングトレイル等）の推進
- ・森林活用による新しい産業の創出やスタートアップに向けた森林の活用と人材の育成

- ・ 森林体験学習により「仲間と楽しみ、未来を創っていく力を育む」を目指すことと同じ方向性を持つ、本市の「おかや絹結プログラム」、「育ちの芽」の実践の推進
- ・ 将来的な地元の材の建築等への活用に向けた環境の醸成やそれに向けた枠組みの構築